



学校だより

新潟市立中之口東小学校 2026. 3. 24
第395号 子ども数110名
ホームページ
<https://www.kiranico.jp/>



主人公

校長 小森 康貴

3月19日に卒業式が行われ、19名の6年生が立派に卒業しました。そのときに私が話した式辞は以下の通りです。私が卒業生に一番伝えたかったことです。

式 辞

ドラマや映画などの物語には、必ず主人公がいます。主人公は、ヒーローだったり、素敵な俳優が演じていたりするため特別なイメージがあります。しかし、主人公という言葉は、もともとは「本来の自分の姿」という意味です。

主人公が「本来の自分の姿」であるとしたら、誰もが自分の物語の主人公であるはずで

自分の物語であるならば、あらすじをつくるのは、他の誰でもない自分自身です。実は、卒業生の皆さんが生まれときに、すでに自分の物語は始まっています。誕生日は第1話です。そして、今日は、第1章の最終回です。明日からは、自分の物語の第2章がスタートします。第2章では、どのような自分の物語を描いていきますか？自分の物語ですから、人任せにせず、自分であらすじをつくってください。

自分の物語であるならば、他人の物語と比べる必要はありません。他人はよく見えます。自分より頭がよくて、自分より運動ができて、自分より人気のある人は、きっと自分よりもすばらしい物語を描くと感じるかもしれません。しかし、そのように考えてはいけません。他人の真似をしても素敵な物語を描くことはできません。皆さんには皆さんのよさがたくさんあります。自分のよさを生かして、自分が思い描いたあらすじに向かって突き進んでください。

保護者の皆様、これまでも、お子さんの物語の重要な登場人物としてお子さんを支えてきました。物語の始まりのころは、もしかしたら保護者の皆さんが主人公だったかもしれません。それが、毎日毎日、愛情をもって育てた結果、こんなに素敵な主人公に成長しました。第2章でも、重要な登場人物として、お子さんを支え続けてください。よろしく願いいたします。

地域の皆様、これまでも、卒業生の物語の裏方として卒業生を支えてくれました。ドラマも映画も裏方がいなければ成り立ちません。地域の皆様は、卒業生の物語にはなくてはならない大切な存在です。第2章でも、重要な裏方として、卒業生を支え続けてください。よろしく願いいたします。

卒業生の皆さん、自分の物語とは、まさに自分の人生そのものです。本来の自分の気持ちに正直に、自分らしく、これからも人生という物語を紡いでください。

19名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。